

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp



女の子として小学校生活を送っている児童。週末には子ども用のマニキュアで少しおしゃべりしてみる

子どもの性同一性障害

「なんで男の体なの」と涙

埼玉県の小学2年の男児(8)が身体的な性と心の性が一致しない性同一性障害(GID)と診断され、学校に女の子としての登校を認められて5カ月になる。本人や親はどんな悩みを抱えてきたのか。学校や医師はどう受け止めたのか。今回の例を機に、子どもGIDについて考えた。【丹野恒一、写真も】

児童が5歳の時に写真館で撮った七五三の記念写真は、少し変わっている。りりしい羽織はかま姿のショーツが張られた台紙をめくると、茶色の巻き毛を付けてにっこりほほえむ写真が現れる。まるで別人だ。「周りの女の子を見て『ドレスを着たい』と駄々をこねるので、仕方なく許しました。はかま姿の時むっつきりしていたのがそのようにポーズを取り始めて」。母親(46)は振り返る。

母親はGIDについて、バラエティー番組などで活躍する芸能人を見て何となく知っていたが、このころから「もしかして息子も」と思うようになった。今思えば、幼児の時からままごとが感はさらに強くなった。

好きで、幼稚園では運動会で男の子が上半身裸になる組み体操を嫌がった。そして小学校の入学前に「女の子の格好で通いたい」と言い出した。母親は「はいはい」と受け流しながらも心配に

診断から3カ月学校動く ■ 将来へ母の不安なお

なり、友人や母親に相談した。返ってきた答えは「小学校に入れば、男らしくなる」。自分自身も心のどこかでわが子がGIDとは認めたくない。

*

一昨年10月、母親は自治体の家庭児童相談室を通じて教育委員会を訪ねた。だが「そういう事例の対応マニュアルがないので」と門前払いだった。相談室に専門医の受診をすすめられ、4カ月待ちで昨年2月、初診の日を迎えた。

「迷いはなかった。『むしろ、今にも不登校などの不適応を起こさないか心配だった』」
塚田医師にははがゆい経験があった。かつて診察した子に対し、学校側が「前例がない」との理由だけで制服の変更などを拒み、その子はやむなく退学してしまったのだ。今回は学校に呼び掛け

「性同一性障害をかかえる人々が、普通にくらせる社会をめざす会」(山本蘭代表は1月、教育分野での国の政策充実を求める要望書を川端達夫文部科学相に提出した。要望書では「学校生活のさまざまな局面で苦痛を感じ、自殺を考えたり就学機会を失う者が出ている」と現状を憂慮。教育機関がどう対応するか、国が指針を示していないことが一因だと指摘した。具体策としては、性別により異なる制服やトイレなどに柔軟に配慮することや、教職員や児童生徒がGIDへの理解を深める研修会の開催、正しい知識を持ったスクールカウンセラーの配置——などを求めている。

スカートをはいて自宅で過ごす週末は落ち着いていくが、平日は男の子として学校に行かなければならない。日曜日の昼過ぎると気分が落ち込み始め、布団に入ってから「前に穴が開いたパンツは嫌」「立っておしっこするのがつらい」「なんで私だけ男の子の体なの?」と涙を流して訴える。

周囲の言動によって自分を逆の性別と思いついた。発達障害が原因で性別の自覚が混乱したりするので、GIDの診断は成人以上に難しい。だが、このケースでは幼少期から一貫して男であることへの違和感があり、診断

児童が悩みを抱えたまま2年生に進級した昨年4月。校長はその診断書を手にとり、頭を抱えていた。

*

3カ月間迷った末、校長はその年の7月、担任教諭とクリニックを訪ねた。塚田医師は「時間がかかったな」と思ったが、口には出さなかった。しかし「このまま放置すれば、教育の機会均等を阻害しかねません」とだけはしっかりと伝えた。

*

当事者団体が教育機関の柔軟対応求める

GIDの当事者ら約760人で行く「性同一性障害をかかえる人々が、普通にくらせる社会をめざす会」(山本蘭代表は1月、教育分野での国の政策充実を求める要望書を川端達夫文部科学相に提出した。要望書では「学校生活のさまざまな局面で苦痛を感じ、自殺を考えたり就学機会を失う者が出ている」と現状を憂慮。教育機関がどう対応するか、国が指針を示していないことが一因だと指摘した。具体策としては、性別により異なる制服やトイレなどに柔軟に配慮することや、教職員や児童生徒がGIDへの理解を深める研修会の開催、正しい知識を持ったスクールカウンセラーの配置——などを求めている。

登校になったら、自分でフリースクールを探します」との覚悟は胸に響いた。

資格・検定のポータルサイト
毎日検定バンク
プログラム待ち受けにも使える合格証書

戦国大名を支えた
実力者検定

NEW
カップ麺 鋼検定

パソコン → 毎日検定 検索
ケータイ →

info@mainichikentei.jp